

"Well You Needn't"

●サウンド分析

この曲のここがミソ! モーダル・インター・チェンジとその可能性

今月は、モンク作曲の「ウェル・ユー・ニードント」をテーマに、ハビー・ハンコックのソロを頭2コラス分探譜してみました。

才能に知性とセンス、恵まれた環境、それに長年の修練が加わって、ハンコックのような類稀な音楽家が誕生します。その世界には独自の悩みと幸せ、そしてプロとしてのこだわりがあります。僕が現代において最も尊敬するハンコックが数多くのプレイヤーに与えた影響は、あまりにも大き過ぎて計り知れません。今月は彼のサウンドの魅力のほんの一部を解析してみたいと思います。特に“通常の理論書には書かれていない謎の部分”について、少しだけお教えしましょう。

*

以前にも僕は“ジャズがコード・ネームに支配される時代は、もうとっくの昔に終わった”と、自分の本音を言いましたが、一応ピギナーの方々のためにも、便宜上コード・ネームを表記しました。スコアをチェックしてみてください。

コード・ネームとインプロヴィゼーションの内容（音使い）のつじつまが合いませんね。だから、コード・ネームは必要ないと言ったじゃないですか！

本題に入りました。結論から言うと、ハンコックはこの曲のトナル・センターであるF7というコードをphryianのFm7に置き換えて考えています。これは彼が頻繁に使う理念で“モーダル・インター・チェンジ”といい

ます。スケールで考えると、F-phryianを想定し、そこにもう1音M7th（長7度音）を加えてできる8音スケールを基調とします。これを、F-phryian Be-Bop Scale（スケールA）と名付けます。そして、コードがG^b7に推移したところでは、スケールAと全く同じ構成でG^b音から始まるスケールBを想定し、これをB^b-Lydian b7th Be-Bop Scaleと名付けます。どちらのスケールも、強拍にくる音がコード・トーンになっていることが原則です。

つまりF7-G^b7が繰り返される部分では、AとBスケール——全く同じ音列でのメロディ・ラインの構築が可能になるわけです。これは、Root+7thの連続というビ・バップ・イディオムから脱却してより自由な音世界を創ることができます。ハンコックはこのクラッシュ・ペントトニックを含むスケールAを基調に、クロマチック・スケールを巧みに絡めてインプロヴィゼーションしています（譜①～④）。ですからF7-G^b7-F7-G^b7と決めつけて演奏するのではなく、バーをまたいでどこまでもスケールA（=B）でF7とG^b7の両方をヒップにサウンドさせることができます。

あとはロン・カーターがどんなベース・ラインをスケッチしているかが決め手になってくるわけですが、チェックしてみると、そのラインもコードを決めつけるようなスクエアなものではなく、ハンコックをより自由にさせるような色彩を持っています。それでいて、仮にそのベース・ラインだけを取り出してみても、見事なリッチ・ラインで、まるで前もって創られ、スコアに書かれていたかのような緻密な音の構造と完成度を持っていることに驚かされます。そして忘れてはならないのが、ハンコックの絶妙な間の取り方とそのスペースを100%生かす

解説・探譜=田中裕士

◆『カルテット／ハビー・ハンコック』（ソニーレコードSRCS-7067）
◆探譜パート=ハビー・ハンコック（p）、ロン・カーター（b）



"Well You Needn't"

スケールA (F-Phryian Be-Bop Scale)

スケールB (G^b-Lydian b7th Be-Bop Scale)

F7 (a) R 9 3 5 13 11 13 7 9 M7 9 9 (13) 4 5 (13)
 (b) 9 3 5 13 11 13 7 9 M7 9 9 (13) 4 5 (13)
 (c) 9 3 5 13 11 13 7 9 M7 9 9 (13) 4 5 (13)

Most Inside Normal Most Outside

Up Swing (♩=290)
 1st Chorus

Piano

Bass

譜①

譜②

譜③

譜④

D^b7(9)

E^b7 E7 F7 E7 E^b7 D7 C7 Alt

STANDARD

STANDARD

"Well You Needn't"

Musical score for "Well You Needn't" featuring two staves (treble and bass) with piano accompaniment. The score includes chords such as F₇, G₇, F₇, G₇, F₇, G₇, F₇, C₇, and F₇⁽⁹⁾. The vocal line includes several chromaticisms, indicated by brackets labeled "(Chromatic)". The score is divided into sections: "2nd Chorus" and "譜⑤".

Musical score for "Well You Needn't" featuring two staves (treble and bass) with piano accompaniment. The score includes chords such as F₇, G₇, F₇, G₇, D₇⁽⁹⁾, D₇⁽⁹⁾, E₇, E₇, F₇, E₇, E₇, D₇, C₇, F₇, G₇, F₇, G₇, F₇, G₇, F₇, G₇, F₇, C₇, and F₇. The vocal line includes several chromaticisms, indicated by brackets labeled "(Chromatic)". The score is divided into sections: "譜⑦", "譜⑧", and "譜⑨".

田中裕士(●長い間懸念に探し続けていたコードがたくさんあるんです。欲しくても辛抱できないので、誰か持っている人がいたらぜひとも譜面まで連絡ください! ク里斯・アンダーソン(ア)S「トイ・ロマンス」と、クリア・フィッシュヤーの80~90年代のソロ・ピアノ作品(「トロ

STANDARD

STANDARD